

平成31年4月19日

姫路市教育委員会

(文化財課)

## 市指定文化財の指定について（報告）

姫路市教育委員会は、平成31年4月18日（木）に定例教育委員会を開催し、新たに2件の市指定重要有形文化財として指定することに議決しましたので、次のとおり報告いたします。

なお、今後、姫路市公告式条例及び姫路市公告式条例第2条に規定する掲示場の位置に関する規則の規定に基づき姫路市役所前掲示場に告示し、所有者等に通知する予定です。

### 記

#### 1 指定物件

種別	名称	員数	所在地・所有者
絵画	仏涅槃図	1幅	姫路市網干区興浜151 宗教法人 大覚寺 代表役員 中西玄礼
歴史資料	播磨国惣社臨時大祭礼見聞録	3冊	姫路市今宿668 姫路市立琴丘高等学校

#### 2 指定理由

##### (1) 仏涅槃図

仏涅槃図は、釈迦が亡くなられた時の情景を描いたもので、旧暦2月15日の涅槃会の本尊として、お寺の本堂に掲げられ、法会が営まれるものである。

現存する涅槃図の一番古いものは、1086年に描かれた金剛峰寺の応徳の涅槃図がある。大覚寺仏涅槃図の裏側には、制作年を推定できる墨書きがあり、

その内容は大覚寺住職8世空印宗派の時、永禄9年2月15日に宗貞慶観が大覚寺に納めたものとの記述があり、絵画の時代様式からも、この時代のものと合致しており、16世紀代の涅槃図等で作者や制作年の明確な作例は貴重なものになる。

大覚寺の仏涅槃図は、全体の描写は華麗で細部まで極めて詳細に丁寧に描かれている。また、いささかオーバーに菩薩や仏弟子達の悲嘆な表情が描かれており、手前に集まった動物たちの種類の多さなどは、まさにこの時代の特色であり、実に堂々たる大作の優品である。

## (2) 播磨国惣社臨時大祭礼見聞録

一ツ山大祭と三ツ山大祭の史料は、これまで国・県・市が指定した文化財はあるものの、播磨国惣社臨時大祭礼見聞録のように江戸時代に開催された、一ツ山大祭と三ツ山大祭の神事や祭礼行列、また、城下町の賑わいなどについて、具体的な内容を記録した史料というものは限られている。

本見聞録の著者は、1冊目と2冊目は同一人物で福中町の矢内利助正春、3冊目は矢内三右衛門正春であるが生業は特定できない。

1冊目は、享保18年、安永2年、寛政5年、文化10年の臨時大祭礼の内容を記載しており、2冊目は、文政8年の大祭礼、天保4年の臨時大祭礼と総社門の普請についての内容を記載している。

3冊目には、嘉永7年の臨時大祭礼の内容について詳しく記載しており、祭礼の準備、組織と構成、造り物、俄、曳き物、木戸物など祭礼期間中の賑わい、町々の取り締まり、また、祭礼の評判や経済効果などにいたるまで記載している。

以上から播磨国惣社臨時大祭礼見聞録3冊は、中世以来の伝統と城下町祭礼、都市祭礼の特質を具えた、一ツ山大祭と三ツ山大祭の実際を詳細に記録した唯一の史料であると言っても過言ではない。よって、本見聞録の資料的価値は高い。